広済寺寺報

発行　浄土真宗本願寺派　福田山　廣済寺
〒933－0344　富山県高岡市笹川98　TEL(FAX)　0766－31－0096
E-Mail　info@kosaiji.net　ホームページ　http://kosaiji.net/

今号の内容・高岡教区東日本大震災支援活動～相馬地区における活動内容～・住職コラム～大遠忌法要円成に際して～

今号の法語

人生の余白は曠し　永久の春

天光

法座のご案内

春季彼岸会

三月二十日(火)　午後二時より

厳しい冬が終わりを迎え、いよいよ春が近づいて来ました。「青春」の言葉よろしく、「春」は、未熟ながらも元気に力みなぎる姿を思い起こさせます。

さて今回の言葉は、真宗出雲路派毫摂寺第二十四世門主、善解上人(号 天光)の言葉です。

人生の「余白」とは「余命」のことではありません。人は命をいただき、一生をかけて成長します。けれど肝心なのは、最後まで未完であること、「余白」のひろさが見えることです。日々仕事に追われるがままの私たちが果たして、八十歳を過ぎてなお「余白はひろし」と思えるでしょうか。「余白」のひろさに気づくことができるでしょうか。

医療の進歩で人間の「余命」は確実に伸びました。しかし「余白」がますます見えにくくなっているのが今の時代なのかもしれません。

高岡教区東日本大震災支援活動

2011年3月11日より早一年。
未曾有の大地震、大津波、そして放射能汚染・・・。
目の前に起こった、想像を絶する現実。
震災が残した傷跡はまだまだ癒えてはいません。
今、自分たちができることは何なのか・・・。

写真右：日本に向けてメッセージを掲げるインドの子供たち

現在浄土真宗本願寺派（お西）高岡教区が行っている活動の一部を紹介させていただきます。

以前の寺報にても紹介させていただいた、広済寺が所属する五位組の支援活動ですが、現在は五位組など呉西地区十三の組を包括する高岡教区の支援活動と合わせて実施している状況です。

その高岡教区の支援活動において昨年秋頃より特に力を入れているのが、福島第一原発の周辺地域である相馬地区への支援活動です。

相馬と富山

今からおよそ二百年前、東北地方を中心に近世史上最大の飢饉といわれる「天明の大飢饉（一七八二年～一七八八年）」が起こりました。直後、相馬地区をはじめとする東日本の人口と生産力は激減。対して北陸地方は人口過剰が問題となっていました（浄土真宗のご法義が篤かった北陸地方の人々は、当時としては珍しくなかった口減らしの為の間引きをしませんでした）。そこで相馬中村藩は復興政策として富山県から相馬地区へと人々を呼び寄せることに（入百姓）。富山の人々も暮らしが成り立ちませんでしたから、たとえ命懸けでもこの誘いに乗ったようです。この相馬地区では現在でもコシヒカリや干し柿が作られ、富山の方言も残っています。また真宗王国で宗寺院や門信徒が多数おられます。

富山米を支援

しかし今回の大震災、原子力災害によって、相馬地区の方々は、先の見えない避難生活を余儀なくされました。

高岡教区では、支援プロジェクトとして富山米を募集し相馬へ届けることを決定。放射能汚染のない「安全なお米が欲しい」との現地の声に応え、高岡教区のご門徒の方々から六・六トンのお米をいただき現地へ届けあった富山からの移民ですから「真宗移民」ともいわれ、相馬地区には現在も真

トラックに詰め込み福島へ

ることが出来ました。

福島にて餅つき

年末には「今年は正月の餅さえつけない」という現状を聞き、飯舘村の方々が避難されている仮設住宅へお餅つきに。今では珍しくなった臼と杵での餅つきに子供たちからお母さん方まで大変喜んでくださいました。

鏡餅やぜんざいを作りました

タオル事業

そして現在高岡教区で呼びかけているのが、生きがい支援プロジェクト「タオル事業」。

この事業は、家も田畑も失い、何もすることができない日々を送らざるを得ない方々に、生きがいや目標となる何かをしたい。こういう思いを持って構想を語られた現地の自治会長さんの言葉を受けてのものです。

仮設住宅では多くの一人暮らしの高齢者や仕事を失った方々が、一日何もすることなく全く先行きの見えない不安の中で生活しておられます。そのため生きがいを失い、仮設住宅の部屋に閉じこもり一歩も出て来られない方も珍しくはないそうです。

タオル事業について説明される自治会長さん（写真左）

そこで自治会長さんが提案されたのがこの「タオル事業」。こちらから材料となるタオルを送り、入居者の方々にタオル細工を作ってもらい、それを販売するという事業。「このタオル細工の作業が一人暮らしのおじいちゃん、おばあちゃんの生きがいと目標になる」、「この製品が売れれば、離れて暮らす孫にお小遣いをあげられる」、そんな願いのもとにお話しされたことでした。

この制作されるタオルは「震災負げねぞうタオル」として、一本五百円で購入をお願いしています（詳しくは「広済寺ホームページ」をご覧下さい）。

象をかたどったタオル細工

継続的支援を

この他、仙台周辺で支援活動などを行っています。大震災から一年。まだまだ現地では支援の手を必要としているのが現状です。しかしボランティアの数は減少の一途。継続的な支援が必要です。高岡教区からは僧侶と共にご門徒の方々も多く参加してくださっておられます。これからもこの高岡教区の活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

住職コラム
～大遠忌法要円成に際して～

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は京都西本願寺に於て昨年四月九日より始まり本年平成二十四年一月十六日にご満座をお迎えし滞りなく修行されました。

ご門徒の皆さまには尊いご懇念とご法要参拝にご参加を賜わり誠に有難く厚く御礼申し上げます。

次の大遠忌法要は五十年後・・・

今後は全国津々浦々の浄土真宗寺院で七百五十回大遠忌法要が営まれることになります。その節にはよろしくお願い致します。

お知らせ

二〇一二年

春季彼岸会
三月二十日(火)
午後二時より
法話　当寺　若院

五位組　歴史講座
三月二十五日(日)
午後七時より
講師　樽谷　雅好　氏
(郷土史研究家)
講題　『高岡御車山と宗教性／浄土教と熊野信仰』
場所　石堤　長光寺

正信偈を読む会
毎月第三土曜日
午後四時より
※三月は休会します

広済寺仏教婦人会
毎月第四土曜日
午後七時半より

広済寺仏教婦人の集い
四月二十日(金)
受付　午前十時半より
内容　オカリナ鑑賞・法話など

編集後記

多くのご門徒の方々のおかげによって勤められた大法要も無事円成。この大法要の為に十年以上も前から準備が進められてきたことを思うと大変感慨深いものがあります。

しかしこの法要の直前、三月十一日に起こった東日本大震災。一万五千人以上の方が亡くなられ、現在も多くの方が大変な生活を送っておられます。

そのような中で行われてきた大遠忌法要。仏さま、親鸞さまの前に座るたびに、自分の生き方を問われているようでした。

親鸞聖人なら今をどのように生きられるのか。対する自分の姿を問い続けながら、これからも活動させていただきたいと思います。